

設置目的

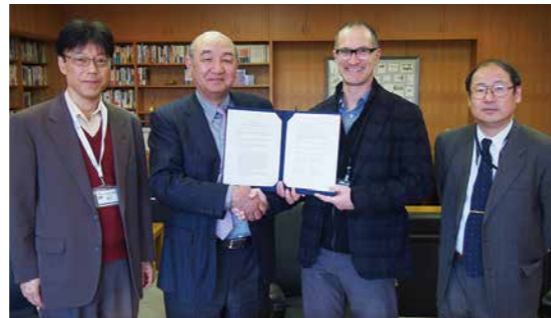
国際学術交流室は、組織的な国際交流を円滑に進めることを目的として、平成22年4月に設立されました。本館は、創設以来グローバルな視野をもち、積極的に海外の研究機関や研究者と連携、協力しながら研究活動と博物館活動をおこなってきました。国際学術交流という点では大学共同利用機関の中でも先駆的な役割を果たしてきたといえるでしょう。20世紀末に始まった情報通信技術革命は、国際的な情報交換のスピードと量を飛躍的に増大させました。その結果、本館の国際的な活動はもはや個人の努力や関係では処理しきれない状態となり、組織的、戦略的な国際交流が求められています。国際学術交流室は、これまで蓄積されてきた海外の研究機関、研究者との関係を活かしつつ、本館がより戦略的、より組織的に国際的な研究連携や共同研究を推進するために、以下のような活動をおこなっています。

海外の研究機関との研究連携、研究協力の推進

研究連携や研究協力のために、海外の研究機関との学術協定について、調査・締結を進めています。平成27年度は、10月に台湾・国立台湾歴史博物館と、1月に米国・ヴァンダービルト大学との間で学術協定を締結しました。



台湾・国立台湾歴史博物館との協定調印式



米国・ヴァンダービルト大学との協定調印式

協定先機関名	協定締結日	協定の概要および平成27年度活動概要
ヴァンダービルト大学 (米国)	平成28年1月15日	国際共同研究、国際シンポジウムの開催など。27年度には、国際シンポジウムを開催し、これまでの研究成果を評価し、今後の研究の方向性を定めた。
国立台湾歴史博物館 (台湾)	平成27年10月17日	共同研究、博物館展示協力など。27年度には、同博物館をみんぱくの研究者数名が訪れ、常設展示の見学、意見交換、国際ワークショップを行った。
北アリゾナ博物館 (米国)	平成26年7月4日	学術交流・研究の強化・発展。27年度には、研究集会でのプロジェクト進捗報告、国際ワークショップの開催、日本への研究者招へいを行った。
文化省文化財保護局 (マリ)	平成26年5月7日	マリの文化財の保護と研究、教育、普及に関する協力。27年度には、論文集の刊行準備、過去に出土した考古学資料の再分析を行った。
中国社会科学院民族学・人類学研究所 (中国)	平成24年8月28日	学術交流ならびに研究プロジェクトや研究資料、学術情報及び公開出版物の交換と相互利用の展開など。27年度には、論文集の刊行準備、同研究所で開催された国際シンポジウムでの発表などを行った。
国立博物館 (フィリピン)	平成24年7月18日	共同研究、研修、出版、展示等のプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進など。27年度には、共同執筆論文がジャーナルに掲載された。
アシウィ・アワン博物館・遺産センター (米国)	平成24年6月3日	学術協力、共同研究のプロジェクトの展開、博物館資料の展覧および教育分野における協力活動など。27年度には、本館において国際ワークショップを2度開催した。1度目は過去に収録した同博物館館長の講演映像を上映し、1度目は館長本人を招聘し口頭発表を行った。
ベトナム生態学生物資源研究所 (ベトナム)	平成24年3月22日	共同研究、研修、出版、展示等のプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進など。27年度には、共同執筆論文がジャーナル「Aroideana」に掲載された。
ロシア科学アカデミー・ビョートル大帝記念人類学民族学博物館 (クストカメラ) (ロシア)	平成23年10月21日	学術・文化の両分野における相互交流および協力関係を発展など。27年度には、同博物館が有する日本関連の資料のうち、シーボルト、フィッシャーが収集した資料に関する調査を実施した。
ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所 (ロシア)	平成23年6月1日	考古学、人類学、及び民族学の共同研究の推進など。27年度には、民族社会学に関する共同研究を実施した。また、極東ロシアとオセアニアの政治動向と先住民の活動に関する比較共同研究を実施した。
ロシア民族学博物館 (ロシア)	平成22年12月3日	博物館学、調査研究、文化財保護の各分野における協力と相互支援の推進など。27年度には、シベリア諸民族の文化に関する共同研究を実施した。

教皇庁立ベルーカトリカ大学 (ベルー)	平成22年12月1日	学術交流ならびに共同的研究事業の促進など。27年度には、同大学と協働して機関研究の成果刊行の準備を進めた。
アンタナリヴ大学 (マダガスカル)	平成22年11月22日	学術分野における相互協力活動の促進など。27年度には、マダガスカルで現地調査を行った。
エジンバラ大学 (英国)	平成22年5月17日	学術交流ならびに共同的研究事業の促進など。27年度には、英国で英文論文集を刊行した。
国立台北芸術大学 (台湾)	平成21年5月15日	相互の学術交流、研究プロジェクトの展開、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など。27年度には、国立台湾博物館におけるワークショップにて講義と討論、フィールドワークの指導を行った。
内蒙古大学 (中国)	平成20年9月22日	双方の教職員・研究者の交流・研究プロジェクトの展開、博物館展示・教育分野における協力、学術資料・出版物の交換など。27年度には、研究論文集を刊行した。
韓国国立民俗博物館 (韓国)	平成19年7月11日	研究者交流、共同研究、研究集会の実施、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など。27年度には、特別展開催、映像制作、フォーラム型情報ミュージアムについての協議を行った。
順益台湾原住民博物館 (台湾)	平成18年7月1日	台湾原住民族の現代的動態に関わる人類学的、言語学的、歴史学的研究、国立民族学博物館ならびに他の博物館に所蔵されている台湾原住民族関連の資料に関する調査、報告書・研究誌の発行。27年度には、研究会合の開催ならびに関連学会等への組織的な参加など台湾原住民族の文化と社会に関する研究活動を実施した。
国立サン・マルコス大学 (ペルー)	平成17年6月14日	考古学分野における共同研究員調査の遂行、ならびにそれに基づく学術交流を促進すること。27年度には、パコハンパ遺跡の発掘調査、同大学の学部学生の指導、ペルー、エルサルバドルおよび日本各地で開催された学会で協定代表者が発表を行った。

みんぱくフェローズ

これまで本館と関わりのあった海外の研究者、および本館と関連の深い国内外の研究機関を「みんぱくフェローズ」として位置づけ、そのネットワークを構築しています。ネットワーク内の情報交換の手段として、英文のニューズレター (MINPAKU Anthropology Newsletter) を年2回発行し、交流を促進しています。「みんぱくフェローズ」として約1,200件が登録されています。



MINPAKU Anthropology Newsletter

フェローズ地域別一覧 平成28年3月31日現在

地域	件数
アジア・中東・オセアニア	691
ヨーロッパ	186
北米・中南米	223
アフリカ	61
合計	1,161

国内の研究機関等との研究連携、協力の推進 (研究戦略センター)

国内の大学等の研究機関や学会とも研究連携や協力、共同研究等の推進のため、研究戦略センターにおける審議のもと、学術協定を締結しています。平成27年度は、4月に追手門学院大学、11月に株式会社海遊館及び東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所との間で協定を締結しました。

協定先機関名	協定締結日	協定の概要
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	平成27年11月25日	世界諸地域の言語と文化に関する学術研究、連携協力。27年度は、国際シンポジウムを開催した。
株式会社海遊館	平成27年11月19日	産学連携の推進、学術研究の振興、研究成果による社会貢献、連携協力。27年度にはトークイベントを開催した。
追手門学院大学	平成27年4月22日	地域文化の継承と創造に関する学術研究、連携協力。27年度には研究集会を開催した。
大阪工業大学	平成27年3月23日	情報メディア・デジタルコンテンツに関する学術研究、連携協力。27年度は特別展に出席した。
立命館大学	平成26年4月10日	食に関する学術研究、連携協力。27年度はシンポジウムを開催した。
金沢大学	平成26年3月23日	両機関間の連携・協力の実績を基盤に、緊密かつ組織的な体制強化。27年度は研究フォーラムを開催した。
日本国際理解教育学会	平成25年3月28日	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用の促進。人類社会における学術の発展と普及への寄与。27年度は博学連携ワークショップの活動のとりまとめを行った。
日本文化人類学会	平成20年2月27日	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用の促進。人類社会における学術の発展と普及への寄与。27年度には、国際ワークショップを開催した。